

2007年度 排水基準超過一覧

区分	場所	日付	項目	値	基準値	原因	対策
＜吉田キャンパス＞							
工学研究科	(特定に至らず)	2007/4/3	pH(水素イオン濃度)	10.7	5超～9未満	アルカリ性の薬剤の放流が疑われるが、原因特定には至らず。	実験排水と生活排水の区分の徹底、ならびにアルカリ性の強い生活排水を流す場合は多量の水で希釈することを、本部地区関連の全ての部署および清掃業者等に書面で注意喚起を行った。
協会社等	中央食堂	2007/4/18	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	39	30	厨房排水より油分が流入	除外施設内部槽の清掃を実施した。またフライヤーエリア、炒め物エリアの拭き取り清掃の徹底を継続する。
協会社等	レストラン・トウール	2007/4/26	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	43	30	宴会が集中したため。	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、従業員への再教育を行う。
協会社等	中央食堂	2007/6/27	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	32	30	厨房排水より油分が流入	引き続き除外施設内部槽の点検を行うと共に、定期点検以外に臨時点検を実施する。
協会社等	レストラン・トウール	2007/6/29	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	32	30	宴会が集中したため。	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底、従業員への再教育を行う。
協会社等	レストラン・トウール	2007/7/27	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	51	30	水温上昇が一因か？	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底を行う。
再生医科学研究所	分子生物実験研究棟	2007/8/1	BOD(生物化学酸素要求量)	650	600	マウス飼育ケージの洗浄排水による。	飼育ケージ洗浄前に床下敷、糞尿を充分除去して清掃するよう動物飼育関係者に周知徹底した。
協会社等	レストラン・トウール	2007/8/24	BOD(生物化学酸素要求量)	740	600	調理場従業員による誤って溢れたオリーブ油を、拭き切れずに流出。	浮遊油分の吸着、除去の再徹底と従業員へ意識の徹底を行う。
協会社等	レストラン・トウール	2007/8/24	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	100	30		
協会社等	中央食堂	2007/9/5	BOD(生物化学酸素要求量)	1,000	600	雑類の汁、てんぷら粉の残等を流入。	前日閉店時の厨芥処理を徹底する。
協会社等	中央食堂	2007/9/5	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	75	30		
協会社等	南部食堂	2007/9/5	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	37	30	グリストラップ清掃が不十分であった。	グリストラップの清掃を徹底する。
協会社等	レストラン・トウール	2007/9/28	BOD(生物化学酸素要求量)	610	600	採水時に来店客が集中したため。	10月10日環境保全センターより指導を受け、徹底した清掃を行い、従業員へ意識の徹底を行う。
協会社等	レストラン・トウール	2007/9/28	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	53	30		
工学研究科(吉田)	(特定に至らず)	2007/10/24	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	48	30	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「生活排水について」、関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
再生医科学研究所	分子生物実験研究棟	2007/10/1	BOD(生物化学酸素要求量)	680	600	マウス飼育ケージの洗浄排水による。	洗浄手順、実験操作を厳重に注意喚起した。
再生医科学研究所	分子生物実験研究棟	2007/10/1	フェノール	44	1	研究室にて実験に使用した水に混在したまま排水したと推定。	
医学研究科(保健学科)	医短校舎	2007/10/1	pH(水素イオン濃度)	10.3	5超～9未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科(保健学科)	医短校舎	2007/10/15	pH(水素イオン濃度)	10.2	5超～9未満		
医学研究科(保健学科)	医短校舎	2007/11/1	pH(水素イオン濃度)	9.9	5超～9未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科(保健学科)	医短校舎	2007/11/15	pH(水素イオン濃度)	9.4	5超～9未満		

区分	場所	日付	項目	値	基準値	原因	対策
医学研究科 (保健学科)	医短校舎	2007/12/3	pH(水素イオン濃度)	9.1	5超～9 未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科 (保健学科)	医短校舎	2007/12/17	pH(水素イオン濃度)	9.2	5超～9 未満		
協会社等	レストラン・ラ・トゥール	2007/12/18	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	36	30	採水日前日に多数の来客があり、洗浄物が多数出たため。	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底を行う。
理学研究科	理学部1号館	2008/1/10	pH(水素イオン濃度)	11.3	5超～9 未満	耐震改修工事において、コンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	建築業者並びに関係各業者へ厳重な注意を継続的に喚起。
理学研究科	理学部5号館	2008/1/10	pH(水素イオン濃度)	11.2	5超～9 未満		
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/1/7	pH(水素イオン濃度)	9.2	5超～9 未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/1/15	pH(水素イオン濃度)	9.4	5超～9 未満		
病院	サービスサブライ棟	2008/2/1	pH(水素イオン濃度)	9.4	5超～9 未満	地階のボイラーから排出されるブロー水の水処理剤。	ブロー水を希釈又は中和等の処理を検討。
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/2/1	pH(水素イオン濃度)	9.2	5超～9 未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/2/15	pH(水素イオン濃度)	9.2	5超～9 未満		
協会社等	中央食堂	2008/2/6	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	35	30	洗浄室作業、厨房清掃が不十分。	前日閉店時の厨芥処理を徹底する。
協会社等	中央食堂	2008/2/20	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	35	30		
協会社等	吉田食堂	2008/2/27	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	81	30	除外設備のプロワーベルトの破損。	保守契約会社での点検強化。
協会社等	北部食堂	2008/2/13	ノルマルヘキサン抽出物質含有量	65	30	除外施設の水量調整(フロートスイッチ)の故障により、水位が低下し濃度が高くなった。	保守契約会社での点検強化。
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/3/17	pH(水素イオン濃度)	9.3	5超～9 未満	耐震工事による新設マンホールがコンクリート原料によるアルカリ性のアクが流入し浄化されないため。	耐震改修工事期間は改善が困難。
医学研究科 人間健康科学系専攻	医短校舎	2008/3/15	pH(水素イオン濃度)	9.6	5超～9 未満		
協会社等	南部食堂	2008/3/26	BOD(生物化学酸素要求量)	700	600	店舗にて小麦粉袋を落下。	作業に充分注意を喚起。
＜桂キャンパス＞							
工学研究科(桂)	ローム記念館	2007/10/2	BOD(生物化学酸素要求量)	880	600	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「生活排水について」、関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
工学研究科(桂)	ローム記念館	2007/10/2	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	220	30		
工学研究科(桂)	Aクラスター	2008/1/4	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	36	30	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「生活排水について」、関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
工学研究科(桂)	ローム記念館	2008/1/8	pH(水素イオン濃度)	9	5超～9 未満	アルカリ性の薬剤を放流したと推定	ローム記念館関連研究室、事務、清掃業者に注意喚起。